

## 師として、母として

中 前 昭 子

先生の訃報に接し、かけつけました。とても穏やかな美しいお顔で、ほんのり紅をさして、静かに眠っていらっ  
しゃいました。十日程前に、お目にかかった時と、少しもお変わりなくまさかと思えるほどまだお身体も温かく、  
とても信じられませんでした。「行く時は羽二重の着物が良い」とおっしゃっていたとか、御家族の皆様がお縫い  
になられた後で、私共も縫わせていただきました。何時もお目にかかっている方、何年振りかにお逢いした方、輪  
になり針を運び乍ら、色々なことを思い出しました。先生には、生徒として入学させていただいて以来四十年間も  
お世話になり、変わらぬ愛情をそそいで下さいました。私共が入学させていただいてまず驚いたことは、ベットの

#### 四、ミキ先生とともに生きて

上からの御指導だったので。しかも、昼は校長として、夜は舎監として、世の常として病気になるれば入院するか、自宅で静養するものと考えておりましたので、何とも不思議な方だということでした。「寝て考えると、良い考えが出るものヨ」と軽くお答えになり度重なる災害にも、病にも負けず、現在のような立派な学園を築き上げられました。私共卒業生は、年々発展して行く学園を、見させていただけるのは嬉しく、誇らしいことですが、御苦労は大変なものだったでしょう。しかし一度だって、苦しいとか、辛いとかおっしゃった言葉を耳にすることはありませんでした。夜となく、昼となく、住は屋根が有れば良い、食物は栄養が足りていれば良い、衣服は清潔であれば良い、と世情が経済的にも余裕が出来、便利なもの、美味しい物、使い捨ての物等、変わり行く中でも少しでも学校の資金にと、それはそれは質素な生活でした。それでも心まで貧しくなってはならないと、「自分は食べなくても、着なくても、人さまに差し上げて喜んで下さればそれが嬉しい」と本当に心のお優しい方であったのです。先生を御存じない方は「こわいお婆さん」と思われていらつしやるようですが、とんでもないことです。私も多くの人々に接して来ましたが、他の人には見るのできない、心の広い、温かい方でした。御心配はおかけしたくないと思いつらも、先生にお話をすれば不思議と力が湧いて来るのです。何か事あるごとに、随分可愛がっていただいたものだとか深く感謝致しております。三年間の学校生活を終え、さてどうしたら良いかと迷っていたとき、「東京に行つて勉強して来なさい。」と進めて下さったのです。当時はテレビがあるわけでもなく、田舎者で、東京は地図の上のもの、広島も良く知らない私はびっくりしました。果たして一人で上京し、勉強できるのだろうかと不安でした。それに、第一学資だつて三年間無理を言つて三年間がやつつという父に、どうしても言いだすことは出来ませんでした。ところが先生は、家庭の事情も良く御存じの上で、奨学金のお世話から上京する時の友達まで紹介して下さい

たのです。お陰様で不自由もなく、心配もなく、二年間色々な勉強をさせていただきました。長い人生で二年間はわずかでしたが、育てられた母校を外から見る機会にも恵まれ、先生の温かな光と熱を、前から後から浴びて、ぬくぬくと育つ温室がどんなに生活しやすいかを味わったものです。もう一つ、結婚に關しても色々と面倒を見ていただきました。母を早く亡くしていましたので、師としてだけではなく、母としてもお慕いしておりましたので、先生もまたお忙しい中、我が娘のように母代わりとして何から何まで私の知らない間に準備を進めて下さり、結婚式の当日も先生のお宅から出していただきました。御祝にいただいた鏡台を今も大切に使用させていただいております。少々痛んだ箇所もありますが、私の大切な宝物なのです。毎日鏡に向かつては当時のことを思い出し、先生の優しさを身にかけて今日も一日頑張ろうと誓うのです。宝物はもう一つ、書です。「誠」と「慎終如始」上手ではないよと謙遜され乍ら書いて下さいました。とても力強く、先生の誠心そのものです。他にもまだまだ学校生活で私生活で受けた御恩は数多く、とても記しきれません。現在、幸せな生活が出来ますのも、先生のおかげなのです。御恩返しは万分の一も出来ず、申し訳なく、残念でなりません。せめてこれからは、お教え下さいました教訓を胸に少しでも先生にお近づきできたらと思っております。長い人生に色々な思い出と、数多くの教えを残して美しいお顔で良くお似合いの羽二重のお召し物で旅立たれました。何時も質素にとおっしゃっていましたが、羽二重の着物は最後に只一度だけの贅沢をされたのではないかと思ひ、胸のつまる思いでした。本当にいろいろ、ありがとうございました。